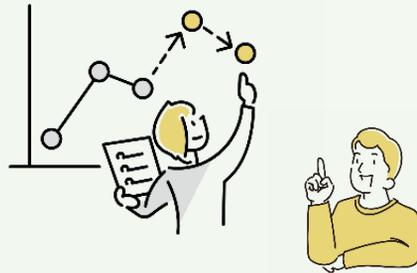


地域政策課から、1月までの地域コミュニティ組織の活動状況を紹介します。

桜井地区

12月15日 アドバイザー派遣

桜井地区自治会連合会では、地域活動アドバイザー派遣制度を活用し、意見交換を行いました。講師はカントリーラボの宮崎道名氏が務め、桜井地区の国勢調査等に基づく人口データから、今の置かれた状況の確認と今後の参考になる他自治体の事例などの話がありました。



上府中地区

12月16日 千代中探求学習発表会

小田原版STEAM教育の一環で、上府中地区まちづくり委員会の農業指導プロジェクトメンバーが関わる、千代中1年生による地域課題解決型の探求学習の成果発表会が実施されました。「ジャンボタニシ清掃作戦」と銘打ち、地域の農家を悩ませるジャンボタニシの繁殖・被害をどのように食い止めるかについて、様々なアイデアが提案されました。地域と学校が連携しながら地域課題の解決を目指す、とても良い取組となりました。



富水地区

12月18日 交通安全キャンペーン

富水地区まちづくり委員会の交通安全分科会は、富水駅、蛭田駅、相模沼田駅、飯田岡駅の4駅にて「交通安全キャンペーン」を実施しました（参加者20名）。来年度から施行される改正道路交通法により、16歳以上の自転車運転者による「ながらスマホ」などの違反に対し、新たに「交通反則通告制度（青切符）」が導入されることから、この制度の周知のため、説明チラシを添えたポケットティッシュを帰宅途上の通勤客へ配布しました。制度への関心の高さもあり、用意した450袋は、配布開始からわずか30分ほどですべて配り終わりました。



下中地区

12月24日 下中幼稚園 餅つき

地域アクション
いきいき補助金
活用事業!

下中幼稚園では、「餅つきをやりたい」という保護者の思いを叶えるため、関係者有志で「しもなか地域ふれあいの会」を立ち上げ、餅つき体験が実現しました。未就園児やその保護者、関係者なども含めて計40人程度が参加し、PTAも協力しながら、子どもたちの元気な掛け声に合わせて和気あいあいと行われました。餅つき後は、子どもたちが鏡餅を作るとともに、ついたお餅をきな粉・醤油・大根おろしにつけてみんなで味わいました。



新玉地区

1月20日 おひさま広場

新玉地区まちづくり委員会の福祉・健康分科会が主催する「おひさま広場」は、毎月第3火曜日に0歳から未就園児の親子が集う交流の場です。1月20日は、健康おだわら普及員との共催で減塩豚汁会が開かれ、未就園児やその保護者に減塩の豚汁がふるまわれました。「減塩の大切さ」についての講話もあり、参加者は子どもたちの健康づくりに関わる内容に熱心に耳を傾けていました。保護者同士がリラックスして交流や子育ての相談を楽しめる居場所にマッチした企画でした。



万年地区

1月21日 サロンしおぎら

万年地区まちづくり実行委員会の健康・福祉分科会では、9月と12月を除き、毎月サロン会を開催しています。1月は講師をお招きし、折り紙による干支飾りづくりを行いました。サロンのスタッフや参加者同士で教え合いながら、おしゃべりを楽しむ和やかな雰囲気の中、地域住民の交流と健康増進につながるひとときとなりました。



自治会総連合

1月21日 広報分野のアドバイザー派遣

小田原市自治会総連合では、地域活動アドバイザー派遣制度を活用し、各地区で広報分野の活動に携わる方や興味のある方などを対象に、「発信力アップ講座」を開催しました。当日は、神奈川県いのち・未来戦略本部室PRアドバイザーの細野透子氏が講師を務め、効果的な情報発信の方法をテーマに、地域活動における効果的な情報発信の手法や、目を引くチラシの作成方法についてお話しいただきました。



豊川地区

1月23日 交通防犯講演会

豊川地区まちづくり委員会の第2分科会では、防災・防犯・交通安全に取り組んでいます。今回、飯泉公民館で小田原警察署生活安全課防犯係の守屋さんを講師にお招きして、「交通防犯講演会」を開催しました。自転車への交通反則通告制度（青切符）の適用や特殊詐欺被害などをお話しいただき、委員や自治会役員を含め、30名を超える住民が熱心に聞き入っていました。



久野地区

1月24日 防災講演会

久野地区各種団体代表者会の防災分科会では、毎年年初めに地域の防災力を高めるため、防災講演会を開催しています。今回、久野区民会館で防災対策課 津川専門官をお招きし、久野地区のハザードリスクや行政の防災対策、避難所の運営に係る留意点などをお話いただきました。地域にフォーカスした内容だったため、参加者の関心はとても高く、講演終了後には多くの質問が寄せられました。



豊川地区

1月25日 飯泉地区サロン会

豊川地区まちづくり委員会の第1分科会では、今年度も地区内の各公民館でサロン会を開催しています。今回、飯泉地区のサロン会を飯泉公民館で実施し、子どもも含めた約40名の地域住民が集まり、3グループに分かれた対抗戦で楽しい時間を過ごしました。

参加者は、最初に新聞紙で作った棒で体操を行い、その後、紙コップを使用したリレーや釣り、マットス(的当て)、タワーなどのゲームで健康的に身体を動かしました。



片浦地区

地域ので高齢者等の外出(買い物)支援を行う「おでかけサポート」

実施主体: 片浦地区まちづくり委員会

片浦地区まちづくり委員会では、毎週月曜日(一部祝日、年末年始を除く)、路線バスの運行がない時間帯に、地区在住のボランティア運転員が、利用者の自宅周辺から近くのスーパーまで送迎を行う「おでかけサポート」の取組を実施しています。今回は、片浦地区で「おでかけサポート」が立ち上がった背景や取組概要について紹介します。

片浦地区の現状と課題把握



片浦地区は、住民の半数以上が65歳以上という高齢化率が最も高い地区で、高齢による運転免許証の自主返納や公共交通機関の減便などから、高齢者の移動手段の確保が課題となっていました。そこで、地域の課題やニーズを把握するため、平成29年と平成31年にアンケートを実施したところ、家族など近くに送迎を頼める人がいないことや、将来的に移動に困ってしまう人が多数いることが分かりました。一方で、外出支援の取組に協力できる人が一定数いることも分かりました。

地域のでによる課題解決への挑戦



その後も検討を重ね、アンケートで外出支援の取組に協力できると回答した方々からボランティア運転員を募り、まずは地域イベント(夏祭りや健民祭)の送迎から試験的に始め、令和2年1月からおでかけサポートの試験運行をスタートさせました。スタートにあたっては、県の共生社会仕組みづくり外出支援モデル事業を活用し、まちづくり委員会・社会福祉法人宝安寺社会事業部・県・市の4者が連携しながら実施していき、令和2年6月から本格運行をスタートさせました。



片浦地区

地域ので高齢者等の外出(買い物)支援を行う
「おでかけサポート」

実施主体:片浦地区まちづくり委員会

「おでかけサポート」の概要



1回あたりの利用人数は約10人で、コロナ禍も活動を休止することなく、これまでに計282回運行(令和7年12月末現在)し、延べ3,200人以上が利用しています。利用者の負担はガソリン代の実費分のみで、運行に係る活動費は、市及び自治会連合会からの負担金で対応しています。事前にコーディネーターが利用者及び運転員と連絡を取り、その日の乗車人数や運行台数などを調整しています。

「おでかけサポート」の効果



「おでかけサポート」は、買い物支援という主目的だけでなく、道中の車内が利用者間の交流の場にもなっています。現在では、市によるおだタク・おだチケ実証事業や、マックスバリュ東海(株)による移動スーパーも展開され、買い物支援の充実が図られています。6年目に突入した「おでかけサポート」は、利用者にとって心の拠り所になっています。



最後に

ボランティア運転員のグループLINEでは、その日の運行状況について毎回共有されているほか、利用者から感謝の言葉をかけられた出来事なども随時共有されています。利用者の減少やボランティア運転員の確保など様々な課題はありますが、この活動の意義や想いなども分かち合いながら、今後も続けていきます。